

Weekly-Report

C X 週間展望 (7月5日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで《FOMCショックからのリスク回避は一服。急落していた米株式市場も買い戻され、ドル円も年初来高値を更新。各国で出口戦略が意識される中、G7で日銀だけが取り残された格好となっている。

今週は、週末の米雇用統計を始め、重要指標が目白押しの週となる。

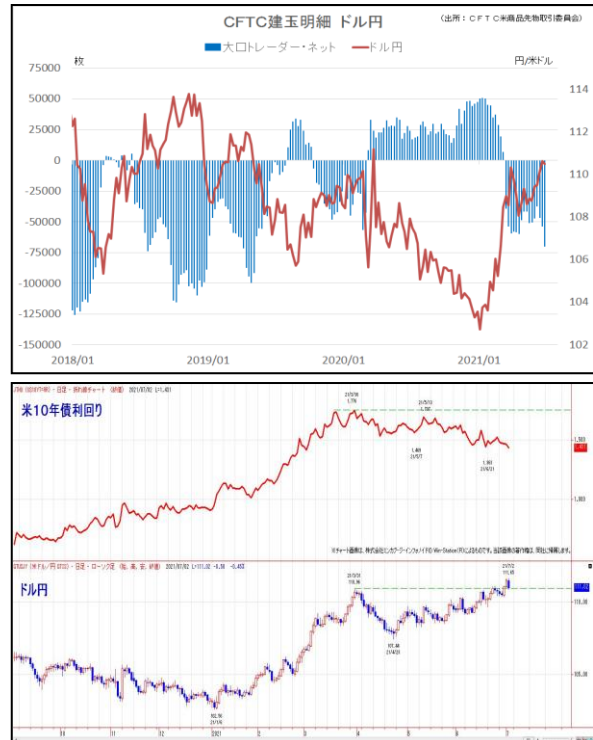
～中略)。米景気回復期待は継続しており、物価上昇傾向も著しい中、雇用の回復に勢いが出るとテーパリング開始期待も強まりそう。非農業部門雇用者数の事前予想は前月比69.5万人増と、前回から伸びが強まる見込み。今回の雇用統計には間に合っていないが、

NY州でのロックダウンが24日に解除されるなど、米国各地で行動制限の緩和は進んでいる。また、失業者特別給付措置なども徐々に終了しており、比較的賃金が低い部門でも雇用の回復が見込まれてくる。

2015年6月高値～2016年6月安値までの下げ幅に対する半値戻しは、112.41円。61.8%戻しは115.59円。》としたが、世界で新型コロナウイルスの感染が再拡大する懸念が強まる中、6月の米雇用統計を控え、積極的な売買は手控えられた中、月末や四半期末のドル需要を背景に円売り・ドル買いが優勢になった。欧州では新型コロナウイルスのなかでも感染力が強いインド型(デルタ株)の感染への警戒感がくすぶっている。米国は相対的にみて景気回復が順調とみられ、ユーロ売り・ドル買いが優勢だった。

また、英イングランド銀行(中央銀行)のベイリー総裁の講演を受け、金融政策の正常化を急がないとの見方が広がり、ドルが英ポンドに対して買われたことも、対円でのドル買いに波及した。

6月の米ADP雇用統計や5月の中古住宅販売製薬指数など、良好な経済指標や、堅調な米国株がドル買いの動きにつながり、3月高値を上抜いた。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



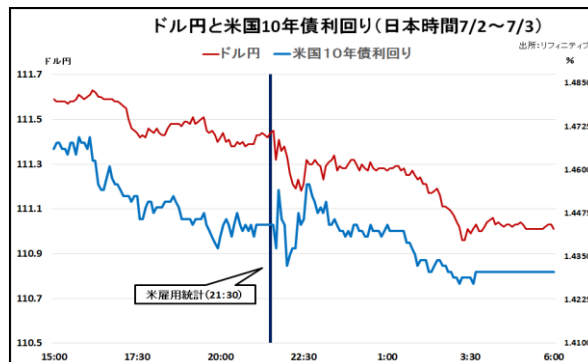
調査課 菊川 弘之

C X 週間展望 (7月5日~)

ドル・円(1)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、反落。雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比85万人増え、市場予想(70万6000人増)を上回った。失業率は5.9%と前月から0.1ポイント上昇し、市場予想(5.6%)より高かった。雇用回復は鈍く、FRBは金融緩和の縮小を急がないとの見方から米長期金利が低下し、円売りドル買いの展開。ラガルドECB総裁がコロナ危機対応の金融緩和を来年3月まで続ける方針を示したと伝わり、ユーロが売られる場面もあったが、米雇用統計を受けてFRBが早期に金融緩和を縮小するとの観測が和らぎ、ユーロ買い・ドル売りの動きとなった事も円高ドル安の一因。



CFTC建玉明細(6/29現在)は、69,895枚の売り越し。前週(53,862枚の売り越し)から拡大。

6月の米雇用統計を受けた米長期金利低下からハイテクなど高PER(株価収益率)銘柄を中心に買いが優勢となり、主要株価指数は軒並み過去最高値更新。

【今週見通し・戦略】

7日発表の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(6月15~16日分)が注目。6月FOMCは経済成長率見通しや物価見通しが3月から上方修正されて、政策金利見通しでは2023年末までに2回利上げが中央値となるなど、タカ派シフトが見られた。

雇用統計は強弱交錯で、独立記念日に伴う休場前で、ドル円には利食いが入ったが、改善を示す米経済指標や要人発言などを背景に、再び底堅い動きを継続するのか?それとも、米金利頭打ち傾向にドル円が上値を抑えられるのか否かに注目したい。

また、ユーロ圏で新型コロナウイルスのデルタ株(変異種)の感染拡大が警戒され、相対的な米国との比較からユーロ売り・ドル買いが続いたが、ユーロは6月安値水準でダブルボトムを形成中。底固めに移行するなら、ドル円の上値は限定的となる。

Weekly-Report

C X 週間展望（7月5日～）

日産証券

調査課 菊川 弘之

金標準先物(7/2 清算値:6,375円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで《ダラス地区連銀のカプラン総裁とセントルイス地区連銀のブラード総裁は、他の当局者の想定よりもインフレ高進が長期化する可能性があるとし、来年にも利上げを開始すべきとの見方を示した。

ただ、ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁とフィラデルフィア地区連

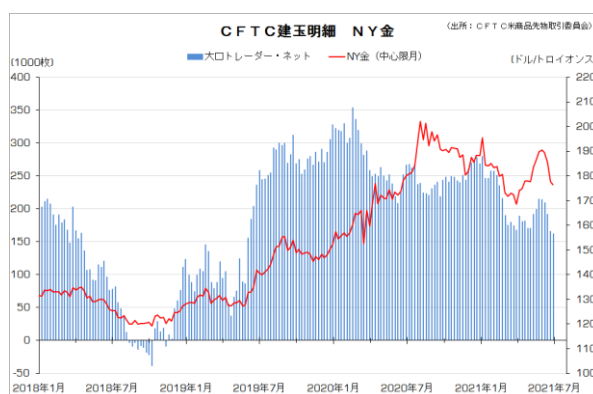
銀のハーカー総裁は、労働市場の回復にはまだ時間がかかると強調し、経済は完全雇用には程遠いとしている。一方、パウエル米FRB議長は議会証言で、FRBは労働市場の「広範で包摂的な」回復を促進するとし、インフレ懸念のみに基づいた性急な利上げは実施しないと改めて表明した。

FRBの中でも意見が分ける中、インフレ懸念が高まるか否か、雇用が強まるか否かが焦点に。短期的な売られ過ぎ感を背景にリバウンドしたものの金の上値は重い。円建て金は、52週移動平均線を回復したが、マザーマーケットのNY金は、52週移動平均線を割り込んだまま。3月安値を割り込むと、ダブルトップ完成となる。割り込まない場合は、値幅調整ではなく日柄調整となる可能性。》としたが、先週のNY金（8月限）は、独消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化によるユーロ安ドル高を受けて戻りを売られ、4月15日以来の安値1750.1ドルを付けた。ただ売り一巡後は安値から戻した。

6月のADP全米雇用リポートで非農業部門の雇用者数（政府部門を除く）が前月比69万2000人増と、市場予想（55万人増）を上回った事を受けて軟調となったが、米国債の利回り低下や株高などを背景に買い戻されて地合いを引き締めた。

米新規失業保険申請件数は36万4000件と、前週の41万5000件から予想以上に改善した。6月の米ISM製造業景気指数は60.6と、製造業が緩やかに拡大したことを示す一方、前月の61.2からは低下し、1月以来の水準にとどまった。雇用は7カ月ぶりに縮小。

金は6月29日に安値を付けた後は、週末にかけて下値を切り上げる展開となった。



Weekly-Report



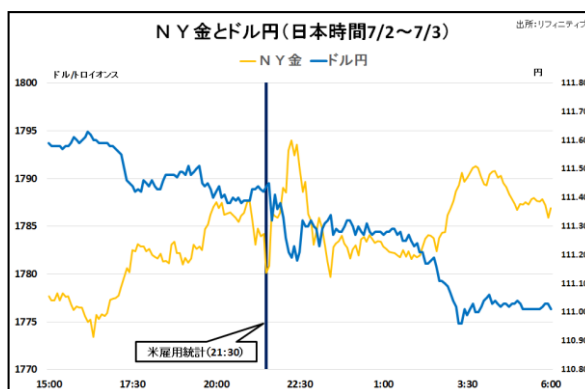
C X 週間展望 (7月5日~)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(7/2 清算値:6,375円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(8月限)は、3日続伸。6月の米雇用統計の発表後にドル安となったことが手がかかり。非農業部門雇用者数(NFP)は回復を続け、市場予想以上の伸びとなったものの、労働参加率が61.6%とコロナ後の低水準を維持したことが早期の米金融引き締め観測を後退させ、米債券市場で長期金利が低下。ドル売り・NY金買いとなった。



新型コロナウイルスの流行を乗り越えて経済活動全体としては正常化に向かっているが、労働者の復職意欲は引き続き高まっておらず、雇用環境の正常化は遅れている。学校再開の遅れに伴う育児都合が女性の再就職を妨げている他、失業給付の特別加算により、いまは「働かない方が得」という状況もあり、求人数が高水準で推移し選り好みが可能となっていることが正常化の障害となっている。CFTC建玉明細(6/29現在)は、162,226枚の買い越。前週(166,214枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略(1)】

デギンドスECB副総裁は、緊急刺激策からの転換を巡る議論は時期尚早という考えを示しており、ラガルドECB総裁も金融緩和を来年3月まで続ける方針を示している。

金下落の一因が、米国と比べての出口戦略の温度差からのユーロ下落



だったが、6月のユーロ圏の製造業購買担当者景気指数(PMI)改定値は63.4と前月の63.1から上昇し、1997年6月の調査開始以来最高となるなど、経済指標の改善も続いており、ユーロがダブルボトムで下げ止まれば、金も底打ちとなる可能性。ユーロ(1.2000水準)と、金(1800ドル水準)のネックラインの攻防に注目したい。それぞれ、上抜ければ底打ち感高まる。

Weekly-Report

C X 週間展望 (7月5日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

金標準先物(7/2 清算値:6,375円)(3)

【今週見通し・戦略(1)】

6月の金相場は、「米国」(FOMC)要因と「中国」(商品高抑制策)要因のダブルパンチを受けて、大幅安となった。

ただし、金価格は3月安値から6月高値までの上昇に対する61.8%押しを達成し、RSIも短期的な売られ過ぎ感を示しており、下げ一服となっている。

2020年3月の水星逆行期のダブルトップ高値と、今回6月のダブルトップの高値を重ね合わせてみると、自己相関の強い展開となっている。同様の相関が続くと仮定するなら、しばらくはレンジ相場で、新たな材料待ちとなる可能性も想定できる。この場合は、じっくり、逆張りで買い場を探りながら、保合い放れになった場合は、トレンドに乗って順張りについて行く戦術が良さそうだ。

一方、FRBの想定通り、インフレは一時的で、良い金利上昇と共に株価・景気ともに順調に推移した場合、金は下値を試す可能性が出てくる。

2011年の当時の史上最高値と2020年の高値(史上最高値)を重ね合わせてみると、フラクタル(自己相関)パターンが確認できる。このシナリオの場合、2021年3月安値のネックラインの攻防が焦点となりそう。

現段階で、インフレが加速するか否かは不透明であり、2021年3月安値の攻防を見極めながら、短期トレードは別にして、中長期スタンスからは、買い場探しに優位性があると考え。

短期的には、内外共にダブルボトムを形成中で、ネックライン(1800ドル水準・6400円水準)の攻防が底打ちか否かの焦点となりそう。



Weekly-Report

C X 週間展望 (7月5日~)

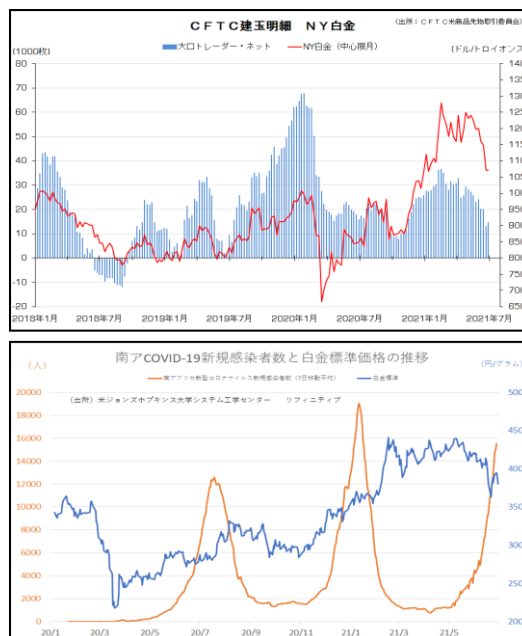
日産証券

調査課 菊川 弘之

白金先物(7/2 清算値:3,890円)

【前週レビュー】

先週レポートで「雇用統計などのマクロ経済指標を受けての金融市場の反応待ち。7月のNYダウの月間騰落傾向は、強気有利の時間帯(90年~勝率74%)」>>としたが、先週のNY白金(7月限)は、6月21日の一番底を試す流れとなったが、押し目を確認して、週末にかけて反発。金や株価の堅調に加えて、生産国の南アにおける新型コロナ変異株感染拡大に伴う供給リスクが材料視された。



週末のNY白金(10月限)は、続伸。6月の米雇用統計で非農業部門雇用者数(NFP)は大幅に増加しコロナ後の雇用回復が続いたが、失業率は5.9%と前月から0.1ポイント上昇し、市場予想(5.6%)より高かった。早期の米金融緩和策の縮小観測が後退。ドル売り・株高となった事が支援要因となった。

CFTC建玉明細(6/29 現在)は、14,744枚の買い越し。前週(12,940枚の買い越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

南アフリカのラマポーザ大統領は27日、インド型変異ウイルスと呼ばれるデルタ株の感染拡大を受け、新型コロナウイルスの警戒レベルを上から2番目の「レベル4」に1段階引き上げ、制限措置を強化した。期間は28日から2週間。

金の生産が世界各国に分散しているのに対して、白金生産は南アフリカに一極集中している。昨年からのコロナ感染拡大による供給障害懸念から、価格は上昇圧力を受けている。JM(ジョンソン・マッセイ)白金族需給調査報告書では、南アのプラチナ供給は40%近くの急回復を示す見通しだったが、コロナ変異株感染拡大が続くなら、需給見通しに見直しが入る可能性もあろう。

心理的節目4000円を上抜いてくると、ダブルボトムが完成する。

Weekly-Report



C X 週間展望 (7月5日～)

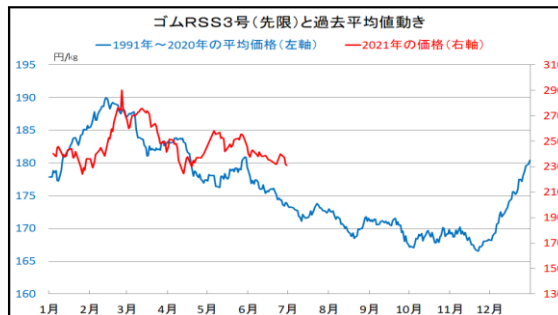
調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(7/2 清算値:218.2円)

【先週レビュー】

先週レポートで「国内市場は、先限が上昇した事で逆鞘解消が進行中。産地価格の低迷により割安感が解消され、限月によっては割高感水準まで上昇、産地価格が回復しなければ新規入着につながる可能性がある。～中略）。

中国当局が商品価格の抑制に動いている中、戻りは売られやすい」としたが、先週のRSS3号は中国製造業PMIが前月比で鈍化するなど中国景気改善傾向に陰りが見える中、中国当局が鉄鉱石投機抑制動いたことや、医療向けの中国産ラテックス価格急落での上海ゴム下落に追従後、上海が売り方の買戻しが入り反発した事で反発。25日には新甫12月限が244.0円まで水準を引き上げた。パウエル議長が改めて「インフレ圧力は一過性」との見方を示し米金利が落ちついた動きとなる中で株式市場が反発した事も一因。



【全国生ゴム営業倉庫在庫】

全国生ゴム営業倉庫在庫は、6月20日現在11,151トン(前旬比249トン減)。6月中旬の入出庫は入庫597トン、出庫846トン。

【今週見通し・戦略】

国内市場は、下落局面で先限に売りが集まり、逆鞘に転換。ただし、期近限月は産地比「上鞘」水準で上値は限定的か。先限つなぎ足は、三尊天井形成中。6月程ではないが、7月も月間騰落傾向は、売り方有利の時間帯。

2020年4月安値～2021年2月高値までの上昇に対する半値押し達成。61.8%押しは、197.6円。要注意は、タイヤマレーシアなどの産地でコロナ感染再拡大の動き。変異株感染拡大により、ゴム農園の従業員が十分に確保できない状況となっている模様。

Weekly-Report

C X 週間展望 (7月5日～)

日産証券

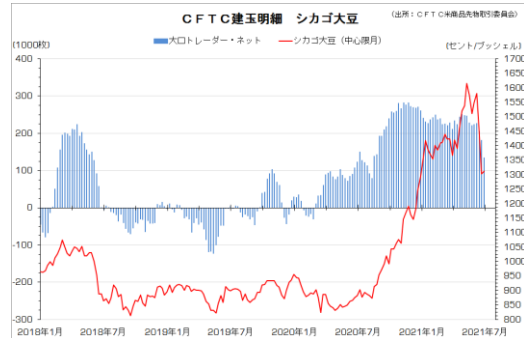
調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(7/2 清算値:56,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで《大豆の生産高に影響を与える8月の天候に市場の関心は移行する。30日に作付面積、全米四半期在庫発表》としたが、先週のシカゴ大豆(11月限)は、作付面積と四半期在庫を受けて急騰。

米農務省発表の作付面積は8755万5000エーカーで3月の作付意向面積の8760万エーカー、予想平均の8915万エーカーを共に下回ったことに加え、6月1日時点の在庫も7億6678万1000Buで昨年同期の13億8139万Buを大幅に下回り、予想平均の7億9500万Buも割り込んだ。



週末のシカゴ大豆(11月限)は、反発。米独立記念日3連休となることもあり、手仕舞い売りが出やすかったが、コーンと違って受渡通知期間に入っている7月当限が堅調だったことや、5月の月間大豆圧砕高が4月を上回ったことなどで堅調な展開となった。CFTC建玉明細(6/29 現在)は、134,011枚の買い越し。前週(180,948枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(6月24日までの一週間)】

176万2900トン(事前予想レンジ:10万~97万5000トン)

【週間作物進捗報告(6月27日までの週)】

発芽:96%(前週91%、前年94%、平年92%)

開花:14%(前週5%、前年13%、平年11%)

「良」以上:60%(前週60% 前年71%)

「劣」以下:9%(前週9% 前年5%)

【今週の見通し・戦略】

21/22年度の需給のさらなる引き締まりが懸念される状況下、米産地では一部地域が記録的な熱波に巻き込まれている。作柄も「良」以上が60%で、前年(71%)を大幅に下回っている。8月の天候次第では、上値リスクが残る。安値売込みは避けたい時間帯。

Weekly-Report

C X 週間展望（7月5日～）

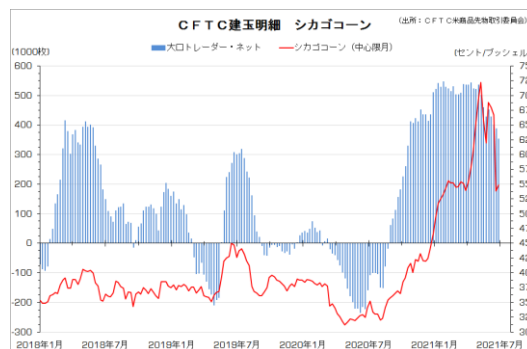
日産証券

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(7/2 清算値:36,360円)

【先週レビュー】

先週レポートで「500ポンド割れなら、ダブルトップ完成からテクニカル主導の一時的な下げ加速も。米産地のコーンはこれから開花～受粉という生産量に最も影響する時期を迎える。天気次第で上値リスクは残る時間帯」としたが、先週のシカゴは、作付面積、四半期在庫とも事前予想を下回る強気の数字となると、ストップ高を含む急騰となった。



週末のシカゴコーン（12月限）は、急落。米独立記念日3連休でもあり、前日の戻り高値更新後の手じまい売りが続いた。受渡通知期間に入っている7月当限が崩れたことや、小麦が急落していることで下げ幅が大きくなった。ブラジル産地の降霜で二期作コーンに被害が出ていることが報じられたが反応薄。

CFTC建玉明細（6/29 現在）は、352,967枚の買い越し。前週（388,411枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（6月24日までの一週間）】

8万2600トン（事前予想レンジ：27.5万～90万トン）

【週間作物進捗報告（6月27日までの週）】

シルキング率：4%（前週 — 前年4% 平年6%）

「良」以上：64%（前週 65% 前年73%）

「劣」以下：8%（前週 6% 前年 5%）

【今週の見通し・戦略】

アイオワ、ミネソタ州の作柄状態に注目。全米四半期在庫は同時期としては2014年以来の低在庫。12日に需給報告があるが、旧穀の20/21年度中心に期末在庫はさらに下方修正の可能性。作柄悪化で新穀21/22年度の単収は下方修正されるとみられる。7月は年間で最も変動率が高まる時期だが、月間の陽線確率は低いことには注意。

Weekly-Report



C X 週間展望（7月5日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

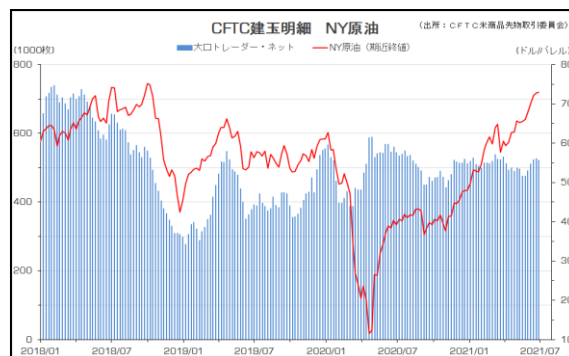
先週レポートで「7月1日の「OPECプラス」会合で、どの程度の増産で合意するのかが足元の焦点。会合前には、ヘッドラインで関係者コメントが飛び交いそうだが、日量50万バレルの小幅な供給拡大を決定するのではとの予想も聞かれるが、無風で通過する可能性も、下振れする可能性も、いずれもある。

また、イラン核合意の米国の復帰を巡る協議については、イラン大統領選で反米保守強硬派のシーア派聖職者、ライシ司法府代表が新大統領となり注目されているが、米国の交渉担当者はライシ新政権の準備が整い次第、7回目の協議を行うとしている。（～中略）。

更に、米国で長期計画のインフラ投資法案（今後8年間で約130兆円規模を投資して、道路や橋梁、さらにはインターネット通信網などのインフラを整備する）を上院の超党派のグループが合意したことが明らかになったが、その財源確保に戦略的石油備蓄（SPR）の放出が含まれていることは、今後の圧迫要因になり得るので注意。（～中略）。

今週は雇用統計を始め、マクロ経済指標が多く発表予定で、改善が見込まれている。7月のNYダウの月間騰落傾向は強気の時間帯。短期的な買われ過ぎ感に対する調整は入っても、原油の押し目は買われやすいか」としたが、先週のNY原油（8月限）は、一代高値を更新。米株価が堅調に推移する中、米エネルギー情報局（EIA）週報で、原油在庫が大幅減少した。直近の発表では前週比671万8000バレル急減。6週連続の減少となった。また4億5234万2000バレルと昨年3月以来の低水準。

1日のOPECプラス会合では合意に達しなかった。サウジアラビアとロシアが8～12月の5か月で日量200万バレル増（月に同40万バレル増）して、減産の期間を来年末まで延長することを提案したが、アラブ首長国連邦（UAE）が難色を示した。2日の再協議で、妥協案が浮上するのかが注目されている。



Weekly-Report

C X 週間展望 (7月5日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(8月限)は、小反落した。「OPECプラス」会合で意見調整が難航していることから模様眺めムードが強かった。8月以降の減産目標をさらに縮小する方向でまとまりつつあるが、アラブ首長国連邦(UAE)が減産目標を設定するうえで基準となる生産量の修正を引き続き主張しているほか、「OPECプラス」の協力宣言(DOC)の延長を拒否しており、協議が行き詰まっている。取引時間中には結果は伝わらず、小幅な値動きとなった。

ロイター報道では、「OPECプラス」は2日の閣僚級会合で、アラブ首長国連邦(UAE)の反対を押し切り、減産の規模縮小と期間延長で合意。決定は全会一致が原則となっており、反対意見が出る中での合意は異例。今回の決定で、OPECプラスは8月以降、減産規模をさらに縮小するほか、当初2022年4月までとしていた減産期間を22年末まで延長する。UAEは減産縮小には賛成したものの、減産の延長については、減産の基になるベースラインの見直しを条件として求めたという。

ハリケーン「エルサ」が米メキシコ湾岸に向かっていていることは支援要因。「エルサ」はカリブ海を西北西へと移動しており、週明けに米メキシコ湾に接近する見通し。ただ、キューバを通過した後はハリケーンから熱帯性暴風雨へ弱まったうえ、進路を北側へと変え、フロリダ方面に向かうと予報されている。

CFTC建玉明細(6/29現在)は、522,490枚の買い越し。前週(526,161枚の買い越し)から縮小。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが2日公表した統計によると、同日までの1週間で米国内の石油掘削リグ稼働数は4基増加し、376基となった。

天然ガス掘削リグ稼働数は1基増の99基だった。



Weekly-Report



C X 週間展望 (7月5日～)

調査課 菊川 弘之

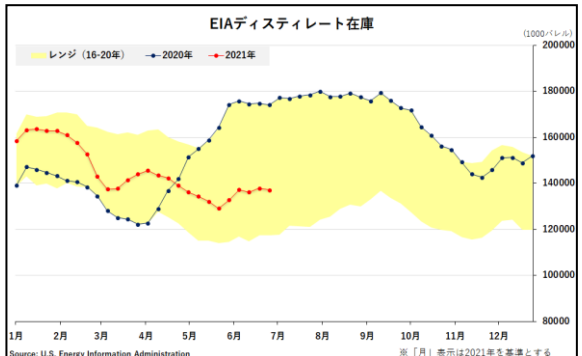
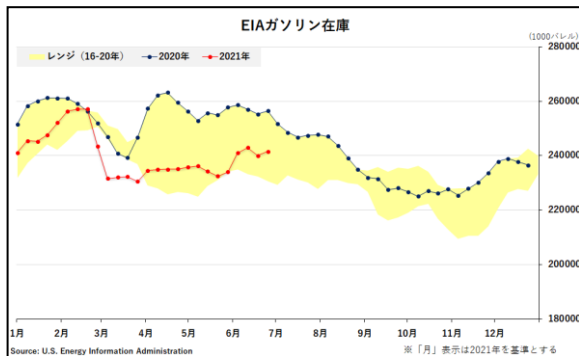
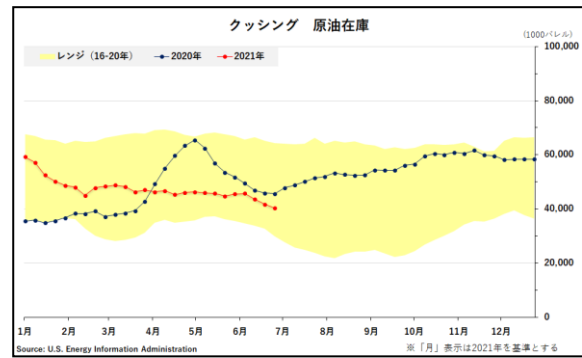
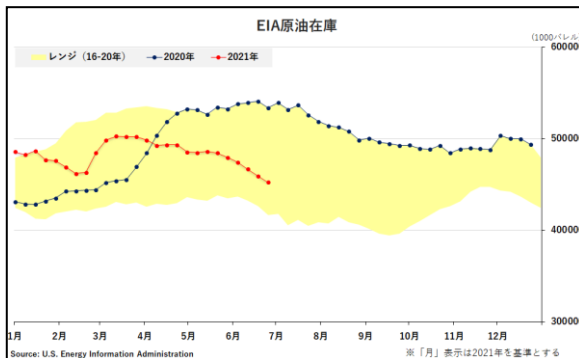
東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 4億5234万バレル
 クッシング 4026万バレル
 ガソリン 2億4157万バレル
 留出油 1億3708万バレル

371万8000バレル減少
 146万バレル減少
 152万2000バレル増加
 86万9000バレル減少



【石油連盟週報】

石油連盟週報(20日～26日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比2.4%減の230万9305キロリットル。灯油在庫は、同3.9%増の176万0834キロリットル。週間原油処理量は4.9%減の226万3050キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが6.0%減の73万8022キロリットル、灯油が13.1%増の6万4906キロリットル。

Weekly-Report

C X 週間展望 (7月5日~)

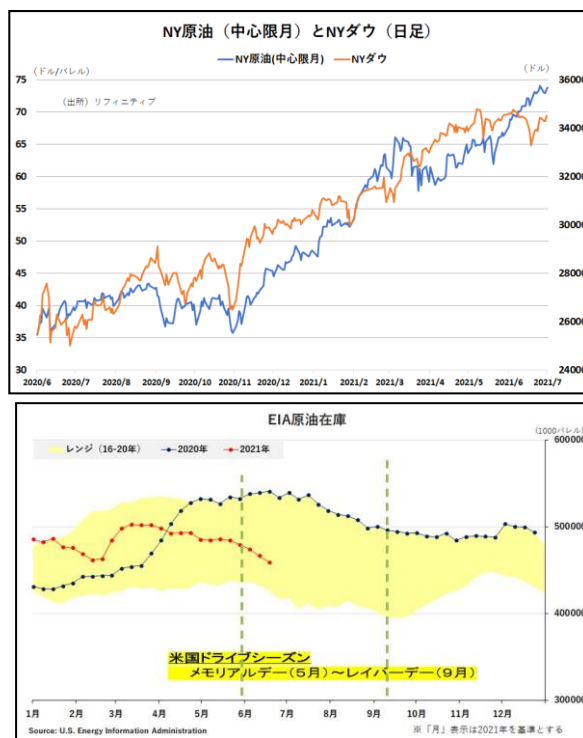
日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(4)

【原油相場見通し】

ロイター報道では、「OPECプラス」は2日の閣僚級会合で、アラブ首長国連邦(UAE)の反対を押し切り、減産の規模縮小と期間延長で合意。決定は全会一致が原則となっており、反対意見が出る中での合意は異例。今回の決定で、OPECプラスは8月以降、減産規模をさらに縮小するほか、当初2022年4月までとしていた減産期間を22年末まで延長する。UAEは減産縮小には賛成したものの、減産延長については、減産の基になるベースラインの見直しを条件として求めた。



イラン核合意の米国の復帰を巡る協議については、米国の交渉担当者はライシ新政権の準備が整い次第、7回目の協議を行うとしている。イラン・米国双方とも核合意復帰と言う目的は、一致していると思われる。合意等のヘッドラインが流れれば、価格がここ最近の高値圏にあることから、調整安の一因となる可能性はある。更に、米国で長期計画のインフラ投資法案(今後8年間で約130兆円規模)の財源確保に、戦略的石油備蓄(SPR)放出で財源を確保することになったことは、今後の圧迫要因。SPRを約8200万バレル売却予定。

米マクロ経済指標の多くの改善が見込まれている中、原油と関連の高いNYダウの7月・月間騰落傾向は強気の時間帯。季節的には米ドライブシーズン・ハリケーンシーズンで、安値売り込みは避けたい時間帯。価格上昇にも関わらず、シェールの増産ペースも遅い。米国勢調査局が2日発表した統計によると、5月の米原油輸出量は日量271万バレルと、前月の324万バレルから減少。

2015年のイラン制裁解除時も、イランがフル生産に戻るまでには1年ほどの時間が掛かっている。

原油市場は短期的な買われ過ぎ感に対する調整は入っても、押し目は買われやすいか？

Weekly-Report



C X 週間展望 (7月5日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (7/5~7/11)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
7月5日(月)	10:45	中国	6月	財新 サービス業購買担当者景気指数 (PMI)	55.1
	16:55	ドイツ	6月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI)	58.1
	16:55	ドイツ	6月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	60.4
	17:00	ユーロ圏	6月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	58.0
	17:00	ユーロ圏	6月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	59.2
	17:30	ユーロ圏	7月	ユーロ圏投資家センチメント指数	28.1
	休場	米国	—	独立記念日(振替休日)	
7月6日(火)	8:30	日本	5月	全世帯消費支出 (前年比)	13.0%
	15:00	ドイツ	5月	鉱工業受注 (前月比)	-0.2%
	18:00	ドイツ	7月	ZEW 景気期待指数	79.8
	18:00	ドイツ	7月	ZEW 現況指数	-9.1
	18:00	ユーロ圏	5月	小売売上高 (前月比)	-3.1%
	22:45	米国	6月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	63.9
	22:45	米国	6月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	64.8
7月7日(水)	23:00	米国	6月	ISM 非製造業総合指数	64
	23:00	米国	5月	JOLTS 求人件数	9,286 (千)
7月8日(木)	8:01	イギリス	6月	RICS 住宅価格指数	83
	8:50	日本	5月	経常収支	1,322 (十億)
	21:30	米国	月28日, 週	新規失業保険申請件数	
	21:30	米国	月21日, 週	継続失業保険受給総数	
7月9日(金)	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
	4:00	米国	5月	消費者信用残高	18,610 (百万)
	10:30	中国	6月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	9
	10:30	中国	6月	消費者物価指数 (CPI) (前年比)	1.3
	23:00	米国	5月	卸売在庫 (前月比)	1.1
7月10日(土)					
7月11日(日)					

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

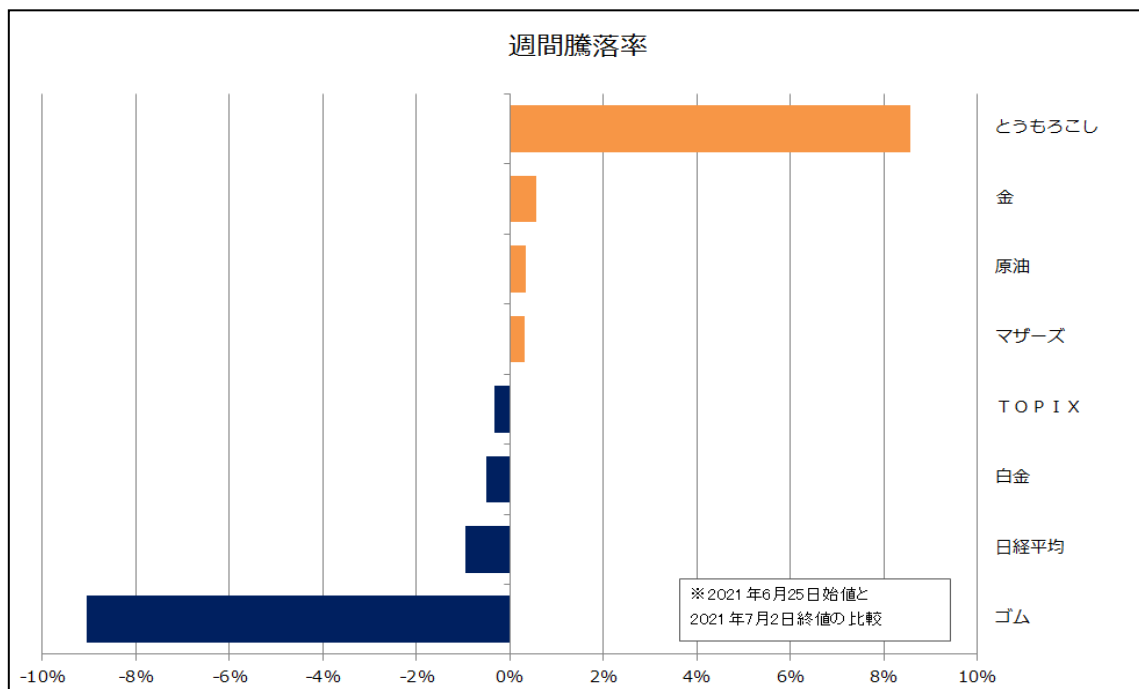
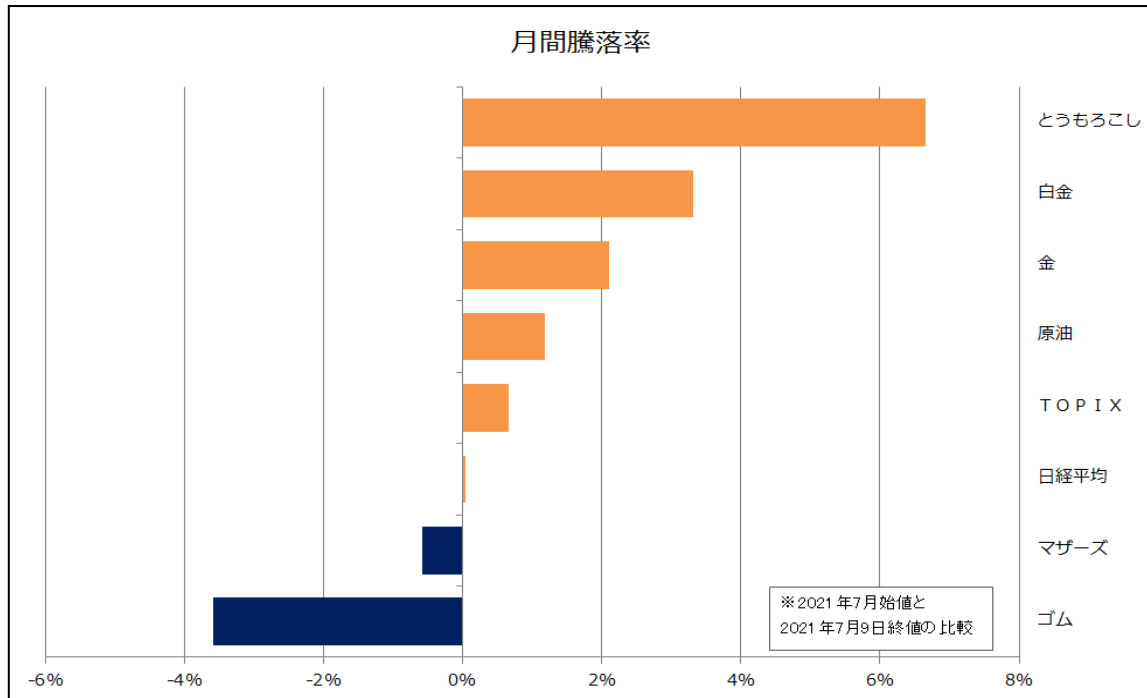
Weekly-Report

C X 週間展望 (7月5日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。